

令和 5 年度 富屋小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

豊かな心と健やかな体をもち、自ら考え進んで学び、次代をたくましく生きる児童の育成

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）富屋の子：元気・根気・思いやり

○元気でやりぬく子 ○自分で考え進んで学ぶ子 ○仲間のために考えはたらく子

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

一地域に根ざし、児童が生き生きと活動する学校の創造一

富屋地区の特性は、恵まれた自然、豊かな歴史と文化、地域の人々の強い絆である。これらを基盤とした「潤いと活気あふれる学校づくり」に取り組み、児童が郷土を愛し、自立して力強く生きていくための「確かな学力・豊かな心・健やかな体」を育むことを目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) （地域の特性や教育力を生かした特色ある教育活動の推進
- (2) 道徳科の授業や体験活動を中核に、自他の生命を尊重し、感謝や思いやりなどの豊かな心を育成するための教育活動の推進による、いじめを生まない指導の充実
- (3) 自信や自己有用感を育成するため、積極的に児童一人一人のよさを認め励ます教育の推進により、居がいのある温かい雰囲気 of 学級経営等による、不登校を生まない支援の充実
- (4) 学ぶ意欲の向上と基礎・基本の確実な定着を図り、主体的に学ぶ態度の育成とともに、学習課題をはっきり理解させ、見通しを大切にした「わかる授業」の一層の充実
- (5) 基本的な生活習慣の確立と社会性の育成を図る児童指導の充実
- (6) 自らの健康を大切にする能力や自己の安全を守る能力の育成
- (7) 勤務時間を意識した働き方の推進と、教育公務員としての使命感と誇りをもって、自らの資質の向上に努める職員研修の充実
- (8) 地域に開かれ、信頼される学校づくりの推進（地域はみんなの学校）

[晃陽地域学校園教育ビジョン]「未来を見据え、地域と連携し、子どもが生き生きと学ぶ晃陽地域学校園」

4 教育課程編成の方針

(1) 基本方針

- ・国、県、市の方針を受け、本校教育目標達成のための経営方針や努力点、学校評価の反省等を踏まえた編成
- ・基礎的・基本的な内容を重視しながら、創意工夫を生かした教育及び特色のある学校づくりを意図した編成
- ・カリキュラムマネジメントの視点のもと、教育活動全体を通して学校教育目標が達成されるような編成

(2) 留意事項等

- ・教育課程全体のバランスを図りながら、学習指導要領のねらいが実現可能な指導時間の十分な確保

- ・問題解決的な学習や体験的な学習による、主体的・対話的で深い学びの実現と、思考力、判断力、表現力の伸長
- ・学習形態や指導体制の充実による、個に応じたきめ細かな指導の充実
- ・道徳科の授業の充実による、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成
- ・外国語を通じて言語や文化についての体験的な理解と、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成
- ・総合的な学習の時間のねらいに即し、本校の特色を生かした横断的・総合的な学習や探求的な学習の推進と指導の充実
- ・相互関連が十分配慮された特別活動の実施と、自発的・自治的活動を高める指導の工夫
- ・すべての教育活動を通した、好ましい人間関係の構築と生活指導の充実、および「宮っ子の誓い」の意識化、実践化
- ・県・市の人権教育基本方針に基づいた、人権尊重の理念についての理解
- ・「元気っ子健康体力チェック」の結果を踏まえた指導の、より一層の充実
- ・自他の生命を尊重し、健康で安全な生活を営む態度を育成するための、交通安全教室や避難訓練等の効果的な実施
- ・コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、適切に活用できるようにする情報活用能力の育成
- ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の実践と、インクルーシブ教育の理念を踏まえた特別支援教育の推進
- ・「宮・未来キャリア・パスポート」の活用による、自身の夢や目標を実現しようとする意欲や態度の育成
- ・地域に根ざした総合的な学習の時間「富屋ふるさと学習」の推進による、地域を愛し、大切にしていこうとする態度の育成

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- （1）学校運営：学校・家庭・地域の連携体制を基盤とした、地域に根ざした信頼と魅力ある学校づくりの推進【創意工夫と活力ある教育活動の展開】
- （2）学習指導
 - 学力向上を目指す学習指導の改善と児童の学習習慣の形成
 - ・自分で考え、自分の思いを豊かに表現することができる児童の育成
 - ～互いのよさを認め合い、よりよい人間関係をきずくための特別活動～
- （3）児童生徒指導
 - 自己有用感を育てる児童指導と個別支援の充実
 - ・生命の尊さを理解し、思いやりの心をもって正しく判断し、たくましく行動することができる児童の育成
- （4）健康（体力・保健・食育・安全）
 - ・健康的な生活習慣を身に付け、積極的に運動に取り組み、進んで体力を高めようとする児童の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1ー(1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① ICTを活用した教材・教具の工夫や、各教科、学級活動における話し合い活動の場の設定を積極的に行い、友達と協力して学び合う態度を育成する。 ② 主体的、対話的で深い学びを具現化するため、自分の考えをもち表現する場の設定を工夫する。		【達成状況】 【次年度の方針】
1ー(2) 豊かな心を育む教育の推進	A2 児童は, 思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 各種特別活動において、縦割り班などの他との交流を深める活動を新たに取り入れ、活動内容を工夫し相手の立場を考えて思いやる心を育む。 ② 道徳科の授業を通し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを育てる。 ③ 人権教育年間活動計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する		【達成状況】 【次年度の方針】
	A3 児童は, 目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に取り組む。 ② 児童が粘り強く取り組む力を育むために、各教科の授業や行事において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を賞賛する。 ③ キャリアパスポートを有効活用するとともに、キャリアパスポートの趣旨を周知し、家庭への啓発に努める。		【達成状況】 【次年度の方針】

1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 児童が自分の健康を管理できるよう、養護教諭と担任が連携した保健指導や日常生活指導を行う。 特に、メディアの使い方の指導を継続すると共に姿勢の指導を強化する。 ② 健康を意識した望ましい食習慣の形成を図るために、栄養士と連携した給食指導やアンケートを活用し食育だよりでの啓発を行う。 ③ 危険を予測し自らの命を守り抜く行動力を育成するため、日常指導における安全指導を充実するとともに、通学路指導、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。	【達成状況】 【次年度の方針】
1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、縦割り班活動を取り入れ、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、教職員も認め励ます指導に努める。 ② 道徳や特別活動の時間を中心に児童の自己肯定感の育成を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
2ー(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 外国語活動を通じて、言語や文化についての体験的活動を意図的に増やしていく。 ② 学校内におけるALTとの交流の機会を増やし、コミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童 85%以上	① 生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業における「宇都宮学」や、市内や地域での校外学習等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。 ② 教師自身が身近な地域や宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるように努める。	【達成状況】 【次年度の方針】

2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 全体アンケートにおける 肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① GIGA スクール構想の趣旨を踏ま え、児童がタブレットや情報通信ネ ットワーク等の情報手段に親しみ、 適切に活用する能力を育成できる よう、授業において ICT 機器を活用 する機会を増やす。 ② 読書の時間や教師による読み聞 かせの時間、図書便りの発行等を通 して、児童の読書意欲を喚起する。	【達成状況】 【次年度の方針】
2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な社 会」について、関心をも っている。 【数値指標】 全体アンケートにおける 肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 教職員自身の「持続可能な社会」 についての知識を深め、児童へ自然 や環境に関する各教科領域におけ る学習、児童会活動での呼び掛けを 行う。 ② 学校生活での節電・節水など、日 常指導を通して環境問題に対する 関心を高め、環境と調和しながら生 きる意識や態度を育成する。 ③ 学校での様々な取り組みを保護 者へ啓発するために、各種たより で知らせる。	【達成状況】 【次年度の方針】
3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A 10 教職員は、特別な支援 を必要とする児童の実態 に応じて、適切な支援を している。 【数値指標】 全体アンケートにおける 肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 特別支援教育コーディネーター や児童指導主任を中心に、校内支援 委員会やケース会議を開き、特別な 支援が必要な児童に対する共通理 解を図って一人一人のニーズを踏 まえた組織的な支援を行う。 ② 特別支援学級の児童はもとより、 通常学級においても、必要において 個別の支援計画を作成し、それに基づ く合理的な配慮を伴う指導に努 める。	【達成状況】 【次年度の方針】

3-(2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 日ごろからいじめは許されない行為であることを指導するとともに、いじめゼロ強調月間で、スローガン募集やゼロリボン着用、いじめゼロ集会等を実施し、いじめゼロへの意識向上を図る。 ② 「生命尊重」「人権尊重」を重点項目とした道徳科の授業を各学年で実施する。 ③ 学校での取組を学校だより・学年だより、HP 等で積極的に保護者に発信し、周知していく。 ④ 教育相談などを活用し、全職員がいじめの早期発見に努め、迅速に組織的な対応を行い、保護者との綿密な連携のもと、いじめの解消および、いじめを生まない学校づくりなどの積極的児童指導に取り組む。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 90%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、全職員で児童を認め励ます指導に努める。 ② 教育相談、Q-U調査、欠席状況調査等の結果を活用し、不登校傾向のある児童の早期発見を行い、校内対策委員会を活用し、S Cなどの外部人材とともに全職員体制で対策を講じる。	【達成状況】 【次年度の方針】
3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 教育相談や日頃の関わりを通して、児童の悩みに寄り添い、相談に乗ったり、問題の解決に努めたりして、児童が明るく生き生きと学校生活を送れるようにする。 ② 児童の良さを認め、称賛の機会を多く設定したり、児童の主体的な活動の充実に努めたりする。	【達成状況】 【次年度の方針】
3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 90%以上	① 授業のねらいや一人一人の課題を明確にし、板書の構造化や振り返りを工夫して、児童の思考や理解を深める授業の実践を図る。 ② PDCA サイクルを活用して指導の改善を図り、一人一人への支援の充実を目指す。 ③ 学年だより等を通して、協働的な学習の充実を図った授業や児童の取組についての情報発信を積極的に行う。	【達成状況】 【次年度の方針】
4-(1) 教職員の資質・能力の向上			

4－(2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 学校の諸課題への対応や、学校行事の実施等に、かがやきルーム指導員や学校司書業務嘱託員、SC等の専門性を生かしながら、全教職員が一丸となって「チーム富屋」を意識して取り組むよう努める。 ② 教職員一人一人の得意分野やよさを生かす組織運営に努め、困難を感じる業務について気軽に相談し、助け合いながら、同僚性を高めていく。	【達成状況】 【次年度の方針】
4－(3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 教職員一人一人が、自己の働き方を見つめ、勤務時間の効果的な使い方やICTを活用して業務の効率化を図る。 ② 各種行事等の企画・運営及び授業・活動等においては、ねらいを明確にしながら、コロナの時代に応じた実施方法の工夫・改善を推進し、教職員の負担軽減を図る。 ③ 学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進めるために支援員等を活用するなど教職員一人一人が負担の軽減を図っていくよう努める。 ④ 「リフレッシュウィーク」を意識することで日々の勤務時間を意識し仕事の効率化を図るよう努める。	【達成状況】 【次年度の方針】
5－(1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① あいさつ運動や中学校訪問、冒険活動教室等行事での交流を行ったり、作品などの掲示で交流したりし、児童が中学校への期待をもつことができるよう努める。 ② 乗り入れ授業や部会ごとの業務連携などにより、教職員の交流・連携の充実を図り、教職員の資質能力の向上に努める。	【達成状況】 【次年度の方針】

5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒保護者 85%以上 ⇒地域住民 85%以上	① 外部の人材や教育資源を有効に活用し、子どもたちの健全な育成を図る。(安全教育、性教育、キャリア教育等) ② 地域の人材や企業・施設等と連携した教育活動を推進する。 ③ 特別支援学校や高齢者施設等との交流活動やホタル愛護、米作り、民話活動等、「ふるさと学習」の充実を図る	【達成状況】 【次年度の方針】
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 毎月安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ② 時期に応じて、食物アレルギー研修や心肺蘇生法講習、熱中症や感染症予防対策等を行う。	【達成状況】 【次年度の方針】
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① GIGA スクール構想の趣旨を踏まえ、児童がタブレットや情報通信ネットワーク等の情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるように、ICT 機器の管理に努めるとともに、タブレットやクロームブックが活用できる環境を引き続き整える。 ② 各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、ICT と図書資料のそれぞれの良さを生かし、学校図書館の環境整備に努める。	【達成状況】 【次年度の方針】
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上 ⇒地域住民 85%以上	① 児童会での活動内容を工夫し、児童が主体的にあいさつについて意識できる場を設けていく。 ② 具体的な場面でのあいさつの仕方について指導し、定着を図る。 ③ 地域と連携したあいさつ週間を継続し、意識の高揚を図る。 ④ 教師自らが積極的に児童に声をかけ、日常から誰にでも元気なあいさつができる雰囲気醸成を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】

	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 生活当番を中心として児童の生活状況を確認し、重点的に指導するべききまりを設定し、全職員で共通理解して、きまりについての指導に取り組む。 ② 「富屋小の生活のきまり」の中から重点項目を決め、ルールやマナーを指導し、定着を図る。児童会活動などを通して児童自らきまりの意義を考え、守れるよう工夫をする活動に取り組ませる。 ③ 児童の実態に応じた月ごとの生活目標を立て、家庭にも周知して、ルールやマナーに対する意識を高める。 ④ 児童会活動などを通して児童自らきまりの意義を考え、守れるよう工夫をする活動に取り組ませる。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B3 児童は、地域の良さを理解し、様々な人々とのふれあいを大切に、地域に愛情と誇りをもっている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 生活や総合の授業における「ふさと学習」を推進し、自分の住む地域のよさを知るとともに、近隣施設等との交流を通して、多様な人々とふれ合う機会を設ける。 ② 地域の特色を生かした総合的な学習や収穫祭等の内容を工夫し、様々な人々とのふれあいを深め、地域への愛着を深める。	B3 以降は、各学校が行を追加
	B4 児童は生活の中で、見通しをもって計画的に進めたり、そのやり方などについて改善を図ったりしている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 学期・年間の個人目標や学級の目標、各行事においてのめあての設定や振り返りの充実を図る。(キャリアパスポートの活用) ② 「問い・見通し・課題解決・まとめ・振り返り」を基本とした授業の実践に努め、児童が見通しや計画の大切さに気付く指導に努める。	

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

7 学校関係者評価

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。